

# 第37回世界卓球選手権大会 東京大会の見どころ

(財)日本卓球協会競技委員会

委員長 森 武

大会日程		
会場	国立代々木競技場第一体育館	
日程	4月28日 (木)	男女団体リーグ開会式
	29日 (金)	男女団体リーグ
	30日 (土)	〃
	5月1日 (日)	〃
	2日 (月)	〃
	3日 (火)	男女団体決勝
	4日 (水)	休日
	5日 (木)	男女シングルス予選トーナメント決勝
	6日 (金)	男女シングルス決勝
	7日 (土)	〃
	8日 (日)	〃
	9日 (月)	男女ダブルス決勝 混合ダブルス決勝

参加国、地域数八〇を上回るといふ東京での第三十八回世界卓球選手権大会は、激しい競技それ自体はもちろんのこと、民族衣裳を身につけてのパーティーや開会式など、「ピンポン外交」の場にもなりそう。日本での開催は、一九五六年の東京、一九七一年の名古屋に次いで三回目の大会となる。

(現在隔年開催)  
見どころのポイントは何といっても日本の復活なるか、日本のタイトル奪還なるかということであろう。前回のノビサド(ユーゴスラビア)大会では、遂に初の無冠の日本に落ちこんだだけに、地元で早いうちに何とか頑張ってもらいたいものだ。

種目は男女団体、男女シングルス・ダブルス、混合ダブルスの七種目で、前回は全てのタイトルを中国が独占した。依然として中国が圧倒的な強さを持つ一方、ヨーロッパ勢の台頭ぶりも見逃す訳にはいかない現状では、日本にとって大変きびしい状況にあることは事実で、組み合わせを見ながら日本の活躍を期待しつつ各種目の予想についてふれてみることにしよう。

(男子団体)  
まず競技日程の前半は団体戦。やはり各国(地域)がもっとも力を入れる種目である。日本は第一カテゴリーのBグループ、ドローの面では幸運である。なぜなら中国の反対側のグループに入ったこと。前回二位のハンガリーは、克蘭パー選手(エース)の不参加、苦手のスウェーデンも入っていないからだ。Bグループの優勝のチャンスは充分あり得る訳だ。(A器)にチャンスがあるのではない。小野もそうであったように、初出場の選手がチャンピオンになるのが多いというジンクスからすれば斎藤だが、中国勢の壁が厚いだけにきびしい。

(男子団体)  
Aグループは強豪揃いではあるがやはり中国が強い。斎藤、小野中心の日本がBでトップになれば、絶対戦するが、どこが出てきても、日本にとって油断ができない。日中の決勝戦を望みたい。

(女子団体)  
前回のランク九位はやや悪いが、三位のソビエトに勝つ力もっている。このように中国を除けば力の差は余りない。すなわち混戦状況にある訳だ。男子と同じで、中国と反対側でドローに恵まれた。日本は新人、星野(高校生)を思い切って団体戦メンバーにエントリーし再起をかけている。一つがすべて決戦であるが、二位以上を確保し何とか決勝トーナメントまで頑張ってもらいたい。可能性はもちろんある。

(個人種目)  
男子シングルスは、全日本チャンピオン斎藤(明大)、第三十五回大会チャンピオン小野(日本薬器)にチャンスがあるのではない。小野もそうであったように、初出場の選手がチャンピオンになるのが多いというジンクスからすれば斎藤だが、中国勢の壁が厚いだけにきびしい。

男子ダブルスの小野、阿部組はアジア大会で中国勢を倒して優勝しているのが、タイトルへの最有力候補の種目である。混合ダブルスでは、この種目のみ出場するというペアがあつて、専門に長い間強化策を進めているので予想しなかったペアがハプニング的に勝ち進むこともあり得るのではないか。

また近年は、第二、第三カテゴリーに属する選手のレベルアップの傾向がみられ、予選や一回戦から高度の技術が披露されることが多くなっているし、団体戦はリーグ戦なのでいつでも優れた最高の技術がみられるので、是非多くの人に見ていただきたい。

